

白内障は眼の中で光を集めるレンズの動きをする水晶体が濁って、視力低下をきたす疾患です。歳をとれば誰にでも起こるので、疾患というよりは眼の老化現象と考えて良いでしょう。いったん濁った水晶体は目薬で透明にする事はできませんし、メガネで視力を上げる事もできません。唯一の治療法は手術となります。

眼の手術と聞くと、誰もが怖いと思われるかも知れませんが、まったく心配はありません。私達は独自の手術法と最新の手術設備を駆使して、短時間で快適な治療を提供します。麻酔の注射は行わず目薬麻酔だけで、一滴の出血も起こさずに、たった2ミリの創口から白内障を取り除き、直径6ミリの眼内レンズを移植するのが当院の標準術式です。要する時間は通常4分程度。濁った水晶体が透明な眼内レンズに置き換えられる事により、視力が回復し、色彩に溢れた世界を取り戻す事ができます。

それだけではありません。移植する眼内レンズをうまく選択する事により、近視や乱視、老眼までも治してしまう事ができるのです。生まれつき強い近視で、分厚いメガネやコンタクトレンズを使っていた方も、手術によってメガネなしの快適な生活が可能となります。メガネをかけずに読書を楽しみたい方、メガネなしで運転をしたい方、あるいはメガネなしで運転も読書もしたい方、すべてのご要望にお応えする事ができます。

医療法人社団 幸星会
日本橋白内障クリニック

理事長・院長
赤星隆幸

診療科目 日帰り白内障手術

診療時間 午前9:30～午後6:30

手術日 火曜・木曜・土曜・緊急応需

休診日 年末年始

- 白内障以外の一般診療は行っておりません
- 受診には事前のご予約が必要になります
- 患者様ご自身の運転による車でのご来院はお控えください
- かかりつけ医のある方は紹介状をご持参ください



最寄り駅

- 東京メトロ半蔵門線・銀座線「三越前」駅直結
- JR 総武快速線・横須賀線「新日本橋」駅から地下通路にて徒歩5分
- JR 各線「東京」駅 八重洲口よりタクシー5分

地下1階 TULLY'S COFFEE YUITO ANNEX 店のビル3階です
地下A6番出口より徒歩1分、1階が三重テラスのビル3階です

医療法人社団 幸星会
日本橋白内障クリニック
Nihonbashi Cataract Clinic

0120-916-207

TEL:03-5542-1446 FAX:03-5542-1447
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-4-1

浮世小路千足屋ビル(YUITO ANNEX)3階
<https://www.nihonbashi-hakunaisho.com>

厚生労働省承認 選定療養実施施設

医療法人社団 幸星会

日本橋白内障クリニック
Nihonbashi Cataract Clinic

世界最高の白内障手術を提供します

白内障手術実績15万件以上
当院での手術件数
(2025年4月現在)

35,833 件

ギネスワールドレコード
(2015年申請)

10,398 年間

白内障手術執刀件数



白内障治療の専門眼科

手術実績が信頼の証

医療法人社団 幸星会
日本橋白内障クリニック

理事長・院長
赤星隆幸

Dr. Takayuki Akahoshi
CEO / Executive Surgeon

1982年 自治医科大学卒業
1982年 自治医科大学眼科研究員
1986年 東京大学医学部付属病院眼科助手
1989年 東京女子医科大学糖尿病センター眼科
1991年 三井記念病院眼科部長（～2017年）
2000年 中国復旦大学医学部（旧上海医科大学）眼科客員教授
2000年 中国ハルビン医科大学眼科客員教授
2006年 米国イリノイ大学眼科客員教授
2019年 マレーシア大学眼科客員教授

アメリカ眼内レンズ学会会員・ヨーロッパ眼内レンズ学会会員
IIIC・ARVO 終身会員・日本眼科手術学会会員・日本眼科学会会員・眼科専門医

執刀医 赤星隆幸

2013年10月の開院以来、当院では10年間に35,833件の白内障手術を行いました。執刀は26年間三井記念病院眼科部長として世界の白内障手術をリードしてきた赤星医師が責任を持って担当します。

1992年赤星医師は独自の手術法「フェイコ・プレチョップ」法を開発し、白内障手術の効率と安全性を飛躍的に高めることに成功しました。この術式を用いて33年間に15万件以上の白内障を治療しています。手術に使われる器具はすべて独自に開発されたもので、現在世界中に広く普及しています。赤星医師の手術は点眼麻酔下に2ミリの創口から短時間¹⁾に行われるため、術後は眼帯も入院の必要なく、両眼同時手術が可能です。

大学の客員教授として手術教育に携わる傍ら、世界68カ国の眼科学界からの招聘を受け、講演や公開手術を行っています。海外の医師免許を持ち、日本国内のみならず定期的にも海外にも出掛け、年間約10,000件²⁾の白内障手術を執刀しています。

日本国内では歴代の総理大臣、現職大臣、皇室関係者、マレーシアのマハティール元首相を始め、サウジアラビアの皇太子など世界の要人の白内障手術を手がけました。

2017年にはギリシアのアテネで開催された超音波乳化吸引手術生誕50周年記念式典で、ケルマン賞⁶⁾を受賞。この賞は超音波乳化吸引術を発明したアメリカの眼科医チャールズ・ケルマンが設立した名誉ある賞で、世界の白内障手術に最も貢献した眼科医に授与されるものです。

実績 / 受賞

- 1) 手術時間：通常4分程度（最短記録1分29秒）
- 2) 2015年ギネスワールドレコード申請（年間10,398件の白内障手術執刀）
2024年度実績6,707件
- 3) 両眼同時手術率：94.1%
- 4) 三井記念病院・秋葉原白内障クリニック執刀症例を含む（2025年4月現在）
- 5) 2024年度多焦点眼内レンズ比率：24.1% 1,465件（国内）
- 6) ケルマン賞受賞

1999年にKelmanは、世界で最も白内障手術に貢献した眼科医に対してその功績を讃えるKelman Awardを設立。第10回受賞者に日本人としては初めて赤星隆幸が選ばれました。独自の手術手技「フェイコ・プレチョップ」「極小角膜切開超音波白内障手術」を開発し、世界66カ国へ普及させた功績が選考委員会に認められました。



無出血・無縫合・無眼帯の日帰り手術

手術の麻酔は点眼だけ。眼球に麻酔の注射をすることはしません。スイス製の特別なダイヤモンドメスで角膜を切開。角膜には血管がないので出血は起こりません。術前に抗凝固剤（血液サラサラの薬）を中止する必要は通常ありません。ダイヤモンドの綺麗な創口は縫わなくても閉じます。手術後は直ちに視力が回復しますので、眼帯もつけずに歩いて帰宅する事ができます。両眼同時手術も可能です³⁾。

フェイコ・プレチョップ

超音波で水晶体を乳化吸引する前に、特殊な器具を使って水晶体を細かく分割する手術法です。これによって超音波乳化吸引に要するエネルギー量が極めて少なくなり、手術時間も大幅に短縮されます。超音波のエネルギーで創口や角膜を傷める事が少ないため、術後早期の視力回復が可能です。

トーリックレンズによる乱視矯正

2004年に1.8ミリの創口から白内障を取り除き、直径6ミリの眼内レンズを移植する「極小角膜切開超音波白内障手術」をベルリンの国際学会で発表。世界中の眼科医が驚愕しました。小さな創口から手術を行う事により、手術によって生ずる乱視（惹起乱視）は克服されました。更に術前からある乱視は、トーリックレンズで治す事ができます。トーリックレンズは2007年に日本でも認可されましたが、精密な術前検査や高度な手術手技が必要なため、殆ど普及しませんでした。赤星医師は独自の手術器具を開発して、今までに49,898件⁴⁾のトーリックレンズによる乱視のない白内障手術を実現しています。

豊富な多焦点眼内レンズ経験

30年以上の豊富な多焦点眼内レンズの臨床経験から、患者さんに最適な多焦点眼内レンズをアドバイスします。乱視のない「極小角膜切開超音波白内障手術」により、老眼を白内障手術で治し、遠近ともにメガネ不要の視力を提供します。年間に1,500件以上の多焦点眼内レンズでの手術を行っています⁵⁾。

当院の多焦点眼内レンズの臨床成績は世界的に非常に高い評価を得ています。



最適な眼内レンズを提供

手術の際に移植する眼内レンズによって、術後の見え方は大きく変わります。術後にメガネを併用される方には保険適応の単焦点眼内レンズを使用しますが、強度近視・強度乱視などで国内認可の眼内レンズが規格外の場合でも適合度数のレンズを自費診療で手配する事が可能です。単焦点眼内レンズの場合、焦点を遠方に合わせると、運転時にメガネは要りませんが新聞を読むには老眼鏡が必要です。近方に合わせると、新聞は読めますが運転時にはメガネが必要です。

多焦点眼内レンズではメガネを掛けずに遠くも近くも見ることができます。多焦点眼内レンズによる手術は、「選定療養」で眼内レンズの差額分を支払い保険診療で行うものと完全な「自費診療」があります。医学的な理由で多焦点レンズが移植できない方には、これに代る新しい眼内レンズを提供できます。

当院では世界中のあらゆる眼内レンズの移植が可能です。長年の臨床経験から使用するレンズを厳選しています。眼内レンズは一度移植すると簡単に交換はできません。手術前に眼内レンズコンシェルジュが時間をかけた説明を行い、それぞれの患者様に最適なレンズをアドバイス致します。



多焦点眼内レンズ

一般向書籍

『白内障手術のすべて』
赤星隆幸 著 KADOKAWA



『【最新版】白内障のひみつ』
赤星隆幸 著 朝日出版



『白内障適齢期』
赤星隆幸 著 小学館

